

各 位

東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会における 大会用車両への水素燃料供給について

当社（社長：大田 勝幸）は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会（以下、「東京 2020 大会」）における大会用車両の燃料電池自動車（以下「FCV」）向けの燃料として、「ENEOS水素」※を供給しますので、お知らせいたします。

大会期間中、投入される大会用車両のうち約500台は、走行中にCO₂を排出しないFCVとなります。当社は、これらのFCVに対し、晴海選手村地区をはじめ、都心部で展開する当社の水素ステーション7カ所を中心に水素を供給することで、持続可能な大会準備・運営を掲げる公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の取組みに貢献してまいります。

なお、この水素供給拠点については、都心部にある既存の当社水素ステーション4カ所に加え、来年の東京 2020 大会開催までに新たに3カ所を整備し、水素の安定供給に万全を期します。

東京 2020 ゴールドパートナー（石油・ガス・水素・電気供給）である当社は、世界が注目し、水素が本格利用される東京 2020 大会に水素を供給するサプライヤーとして、そのムーブメントを未来につなげるため、引き続き自動車等の運輸分野から幅広い分野における水素の普及に向けて、積極的に取り組んでまいります。

※「ENEOS水素」は東京 2020 オフィシャル水素です。

以 上



とどけ! 熱いエネルギー ENEOS

<大会用車両に水素を供給する当社水素ステーション（7カ所）>

ステーション名称	所在地
① Dr. Drive セルフ潮見公園店（福島県内で製造した水素の販売拠点）	東京都江東区
② 東京目黒水素ステーション	東京都品川区
③ 横浜綱島水素ステーション	神奈川県横浜市港北区
④ 千葉幕張水素ステーション	千葉県千葉市美浜区
⑤ 東京晴海水素ステーション（建設中） 2018年2月28日発表済	東京都中央区
⑥ 東京大井水素ステーション（建設中） 2019年3月22日発表済	東京都品川区
⑦ 東京高輪ゲートウェイ水素ステーション（建設中）	東京都港区

※大会専用車両の運行ルート等によっては、上記以外の当社水素ステーションでも供給いたします。

<当社が大会用車両に供給する水素について>

当社が大会用車両に供給する水素の一部には、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）および経済産業省と連携のもと、復興の地・福島県の「福島水素エネルギー研究フィールド」（福島県浪江町）において製造される再生可能エネルギー由来の水素を利用することで、東京2020大会を盛り上げていきます。

<参考：東京高輪ゲートウェイ水素ステーション概要>

敷地面積	867㎡（262坪）
水素供給能力	300Nm ³ /時
水素供給方式	都市ガスオンサイト方式（水素製造装置を本ステーション内に設置）

・建設予定地および完成イメージ

